国語科学習指導案

指導者：下関市立東部中学校　末永喜一

1　題材名：「今に生きる言葉」

2　学習のとらえ方

(1)　生徒は音読などの活動を楽しみにし、自らの音読技能の向上を目指している。

生徒たちは中学校入学後、詩の朗読などの学習を通じ、音読の技能を磨いてきた。特に「詩の世界」では３編の詩のうち気に入った１編を班の中で交代で朗読し、批評し合うという能動的な活動をしてきた。その中で、よりよい朗読のあり方をともに考え、アドバイスし合ってきた。またそのアドバイスを受け、朗読技能の向上を目指してきた。

また古典教材については、小学校時代、日本の古典教材の音読を通じて親しんできている。しかし漢文教材の音読については十分とはいえず、独特の言い回しなどにとまどう場面が少なくないと考えられる。

(2)　古代中国から伝わる漢文独特の言い回しに触れられる教材である。

漢文教材を音読することは、日本の古典教材とはひと味違った独特の言い回しに触れることにつながる。そうすればまた音読の幅が広がるのではないかと思われる。また、現在の日本語には古い中国の言葉から取り入れられた言葉も数多く存在する。特に故事成語はその由来などから人間の生きる知恵などについて学ぶこともできる教材である。

(3)　音読する姿を自ら確認できることは、最高の音読学習である。

指導に当たっては故事の内容に触れ、留意すべき点を確認させた上で音読にチャレンジさせたい。またタブレットを使用し、自らが音読する姿を確認して生徒同士による相互評価を取り入れながら、効率よく漢文独特の言い回しをマスターすることを主眼としたい。

3　本校の国語科の課題とそれに向けての取り組みとの関わり。

全国学力・学習状況調査および山口県確認問題の結果の分析では、本校の国語科の平均正答率はおおむね下関市の平均正答率を上回るが山口県を下回る。１年生において全体的に正答率が良くなかったのは「接続語の適切な使用」「主語の識別ができない」の２点である。これらの点を踏まえて、コミュニケーション能力向上という観点からも、今回の授業は班別学習とし、正しい言葉で批評し合うことを考えさせたい。

4　学習計画

(1)　たくさんの「故事成語」を知り、その由来となった故事を確認する。・１時間
(2)　「矛盾」の内容理解。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間
(3)　「矛盾」の音読練習および発表（本時）。・・・・・・・・・・・・・・・１時間
(4)　故事成語を使って体験文を書く。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

5　本時の学習過程

(1)　主　眼：漢文の独特の言い回しを意識して、よりよい音読ができるようになる。
(2)　準備物：タブレット１０台　アップルＴＶ　液晶テレビ
(3)　授業の過程

学習内容及び学習活動	教師の手だて　（評価：◆）
１　全員で音読する。	
「矛盾」を音読し、お互いにタブレットで記録して批評し合おう	
２　音読し、タブレットで撮影する。	・３人班を指定し、「音読する人」「撮影する人」「音読を聞く人」の役割分担を指名する。
３　音読をタブレットで見聞きし、工夫した点を発表する。	・ワークシートに記入させ、発表させる。
４　感想を交流する。	・ワークシートに記入させ、発表させる。 ・音読者が工夫した点について言及するように留意させる。 ・音読者がどのような点を改善したらよりよい音読になるか、互いにアドバイスし合うようにしたい。

５　２、３、４を繰り返す。	・３人班内ですべての役割を一巡させる。
６　アドバイスを参考に、再び音読し、記録する。	・再びタブレットで撮影し、前回のものと比較させる。 ◆二度の音読を比較し、漢文の独特の言い回しを意識した上で、どのような点が改善されたか自己評価する。
７　朗読を液晶テレビで確認する。	・特に上手だった数人を映し出す。
８　授業を振り返る。	・振り返りシートに記入する。

指導助言者　宇部市立東岐波中学校　校長　河辺哲也　様

◎　タブレットの必要性とはなんだろうか？　言葉の学習においては生徒に明確にしないといけない。教師の役割とはなんなのだろうか。自分にしかできない授業をしないといけない。タブレットに役割を任せてはいけない。

生徒の反応を拾って板書しないといけない。班でやるのなら「矛盾」の音読の仕方を検討させ、読み方を作らせないといけない。

ヒントは生徒たちの中にあった。めあてに沿った漢文の特徴の取得を個人に任せず、授業で共有しないといけない。生徒の良さに甘えてはいけない。ことばに着目した発言をさせたい。それには機械を与えておけばいいというわけではない。たとえば「竹取物語」と比較して考えさせるとか。文中の会話の部分の間の取り方を考えさせるとか。ことばの背後に気づかせたい。「矛盾」が「食い違うこと」という意味と分かれば、極論すればそれでいいということになる。しかしそれではすぐに忘れ去られる。実感し、面白いと思わせないといけない。

今日の授業はタブレットの効果は果たしてあったのだろうか。ねらいは「漢文の独特の言い回しを意識してよい音読をする」だが、漢文の特徴や読み方の工夫を共有した上でやるべきだった。「よりよい音読とは」を生徒に具体的に指示し、共有させたい。タブレット使用の危険性を知っていこう。「ことばを得る」ことを考えたとき、生徒が本当にことばを得たのか、それは記号化されていないか。記号化とは意味を考えてないことと言える。意味を考えさせた上でことばを実感させたい。